



消雪設備の定期点検は、お済みですか？「地下水の守り人」が活躍しています！

本格的な降雪を前に、消雪設備の管理や節水に取り組む「地下水の守り人」も活動開始です。

「地下水の守り人」4名が在籍している、富山市中心部の「五番町消雪設備委員会」では、今年も11月下旬に点検を終えました。

代表の桃井さんに、今年の実施状況や地域の抱える課題について伺いました。



「地下水の守り人」
五番町消雪設備委員会
代表 桃井さん



「ノズルにたまっている砂出しが大変なんですよ」

「五番町消雪設備委員会」が管理する消雪パイプは、富山市五番町と南新町の2町内にわたり、総延長は1240mです。

今年も11月29日(日)に、メンバー12名が参加して点検を実施しました。



たまった砂がこんなに！

今年もコロナの影響で11月の3連休を外して、例年より1週間ほど遅い点検となりました。

メンバー同士がソーシャルディスタンスを心がけながら、不要な散水がないようにノズルの水量を調整。その他にも、基盤内部の除湿剤を交換したり、サビついたキャップにグリースをさしたりして、急な降雪にも対応できるよう備えました。



散水ノズルの調整…水量を絞っていきます。



Q. 消雪設備の管理で、課題は何ですか？

桃井さん

一番は、消雪設備の老朽化です。昭和60年の整備から35年が経過しています。ですから、なお早めの定期点検を行ってメンテナンスすることがとても重要なんです。

点検で、「ポンプが動かない」「基盤が壊れた」となると、修理に時間がかかって、降雪に間に合わなくなるかもしれませんし。



電流チェックは「正常」で一安心。



「地下水の守り人」西野さんは、お得意の配電盤を担当。

Q. 消雪設備の維持・管理を行うようになったきっかけは？

桃井さん 平成28年に「地下水の守り人」の養成講座に、町内の西野さんと参加したことがきっかけです。それ以来4年ほど継続して活動しています。「地下水の守り人」の活動については、個人の負担が大きいのとは思いません。自分の得意なことが、生かしているのではないのでしょうか。逆に自分の不得意なことでは、町内の誰かにお世話になっていますので「持ちつ持たれつ」。いいバランスではないのでしょうか。

Q. まとめ役になって感じることは？

桃井さん 町内にも、色んな意見があるということです。設備の故障がなければ、年間の電気代は家庭からの集金で十分賄えるのですが、新しいポンプを購入するとなるとちょっと厳しい。次に壊れたら、消雪をやめようか、タイヤショベルや小型ラッセルを購入しようかなどと話しています。「なら、どの家も4WDに乗ればいいがでない？」なんて冗談で笑っていますが、本当に壊れたらどう対応するか、難しい選択です。おかげさまで定期点検では異常ありませんでしたので、このシーズンも無事に過ごせたらと思っています。

早朝から地域の通勤・通学路をいかに確保し、高齢者宅にどう配慮していくか…。

地域にあった「消雪」のカタチを実現しようと、桃井さんの奮闘は続きます。



～皆さんの地域でも、消雪設備を適切に管理し、
地下水を大切に使用していきましょう～

